

1. 令和3年度にぎわい交流館運営実績について

(1) 会議室等利用実績について

令和3年度は、緊急事態宣言を受けて8月28日～9月30日に休館し、年間の開館日数は323日でした。感染症対策のため会議室の利用制限を継続し、3月末時点で定員は従来の半分から3分の2程度に、連続使用は3コマ（4時間半）までといったルールのもと運営しています。

利用人数は前年度同期比で約5割増加、利用件数（コマ数）は同じく約9割増加でした。定員を緩和したことや、感染症が落ち着いた時期があったことで、大幅な増加に転じました。しかし、コロナ禍での感染拡大がみられた期間では利用団体が活動を控える動きが目立ち、感染拡大状況による利用への影響が顕著に表れています。

会議室の利用時間区分と定員

	利用時間区分（コマ）	会議室定員
コロナ禍以前	区分なし	会議室ABC：51名 会議室D：15名 和室：16名
令和2年 6月～12月	午前 ①9：00～10：30 ②11：00～12：30 午後 ③13：30～15：00 ④15：30～17：00 夜間 ⑤18：30～20：00 ⑥20：30～22：00	会議室ABC：15名 会議室D：5名 和室：4名
令和3年 1月～12月	午前 ①8：30～10：00 ②10：00～11：30 ③11：30～13：00 午後 ④13：00～14：30 ⑤14：30～16：00 ⑥16：00～17：30 夜間 ⑦17：30～19：00 ⑧19：00～20：30 ⑨20：30～22：00	会議室ABC：25名 会議室D：8名 和室：8名
令和4年 1月～		会議室ABC：34名 会議室D：10名 和室：8名

※まん延防止等重点措置等を受けて、一部の機関で開館時間を短縮しました。

会議室等の利用状況

	R3年度	R2年度	R1年度
開館日数	323日	298日	357日
会議室利用人数	11,269人	7,447人	24,777人
利用件数	2,612件	1,346件	2,006件
利用率 (1件以上の利用があった割合)	午前 91.3%	午前 80.9%	午前 91.3%
	午後 92.6%	午後 83.6%	午後 95.5%
	夜間 49.5%	夜間 49.3%	夜間 78.2%
会議室利用団体数	148団体	117団体	167団体
1件あたりの利用人数	4.3人	5.5人	12.4人
印刷機の利用件数	288件	195件	556件

※令和元年度の利用件数はコマ数ではなく、利用時間数に関わらず1件で計上しています。

会議室ごとの利用人数・件数

		会議室 ABC	会議室 D	和室	合計
利用人数	R3 年度	7,268 人	2,667 人	1,334 人	11,269 人
	R2 年度	5,642 人	1,430 人	375 人	7,447 人
	前年比	128.8%	186.5%	355.7%	151.3%
	R1 年度	13,955 人	6,298 人	4,524 人	24,777 人
	前々年比	52.1%	42.3%	29.5%	45.5%
利用件数	R3 年度	1,138 件	922 件	552 件	2,612 件
	R2 年度	749 件	450 件	147 件	1,346 件
	前年比	151.9%	204.9%	375.5%	194.1%
	R1 年度	786 件	719 件	501 件	2,006 件
	前々年比	144.8%	128.2%	110.2%	130.2%

会議室の利用率

利用率	会議室 ABC			会議室 D			和室		
	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間
R3 年度	49.2%	52.2%	16.0%	41.1%	44.0%	10.1%	22.0%	28.7%	6.3%
R2 年度	69.8%	72.5%	37.6%	43.6%	53.0%	13.1%	14.8%	14.1%	7.0%
R1 年度	75.1%	86.6%	59.4%	72.0%	86.6%	52.4%	64.7%	74.2%	37.8%

※1 件以上の利用があった場合に計上。

会議室の利用率（コマ数ベース）

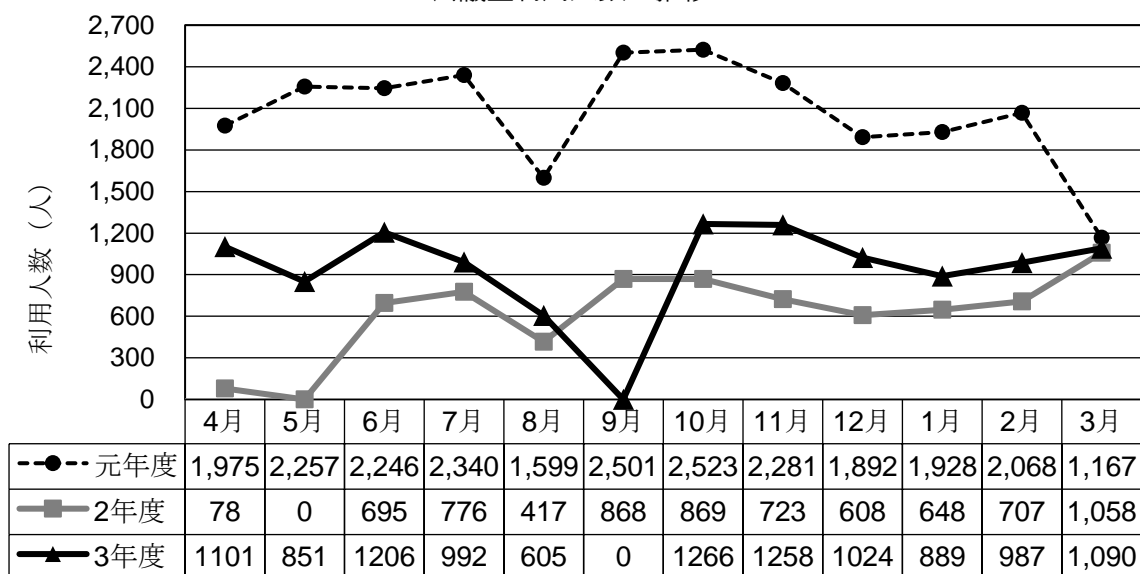
利用率	会議室 ABC			会議室 D			和室		
	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間
R3 年度	74.9%	75.9%	35.0%	68.1%	71.5%	21.4%	36.5%	45.5%	10.8%
R2 年度	44.6%	48.8%	11.6%	37.2%	42.2%	6.6%	16.3%	14.3%	1.2%
	48.1%	42.5%	22.2%	20.0%	27.1%	6.4%	6.1%	4.7%	4.5%
R1 年度									

※利用時間の区分に対してのコマ数を計上。2021 年 1 月からの区分は、午前①8：30～10：00

②10：00～11：30 ③11：30～13：00、午後④13：00～14：30 ⑤14：30～16：00 ⑥16：00～17：30、夜間⑦17：30～19：00 ⑧19：00～20：30 ⑨20：30～22：00

※R2 年度の上段は 1～3 月（9 コマ/日）、下段は 6～12 月（6 コマ/日）。R2 年 4 月及び R1 年度はコマ区分がないため未記載。

会議室利用人数の推移



(2) 市民サロン運営実績について

ワンデイシェフによるランチ提供は、感染症対策のため休止していましたが、1月から再開しました。3月末時点で2団体が活動を再開し、1団体が新規で開始、他に1団体が準備中です。持ち帰りできるお弁当形式が主となっており、1日あたりの平均食数は26.3食でした。

利用促進のため予定していた、8月の「木祖村ランチフェア」、11月の「あったかだんらん鍋フェア」も中止しました。7・8月には市民自治活動推進補助金事業の一環で、1団体が夏休みの放課後児童クラブへお弁当を届けるプロジェクトのため調理室を利用しました。

マーケットは12月末時点で5団体（前年度末と同数）が利用し、月に6回開催されています。会議室やサロン利用制限、ワンデイシェフの休止などで来館者の見込みが少なく、利用を見合わせている団体もありますが、再開したい意向も聞いています。

ランチコンサートは、前年度に引き続き休止しています。再開を望む声は多いものの、感染症対策（飛沫防止）やランチタイムのBGMに適した音量の考え方など、課題が残っています。

ギャラリーの開催回数は13回で、前年度に比べて1回の減少となりました。9月の休館もありましたが、前年度からの展示ルール変更（公平性を保つため同じ人の展示は四半期に1回まで、展示期間を約10日間から約2週間に）もあり、開催回数はコロナ禍以前より減少したものの、ルールは定着しました。

	ワンデイシェフ						ランチコンサート			ギャラリー		
	食数（食）			1日平均食数（食）			開催回数（回）			展示回数（回）		
	3年度	2年度	元年度	3年度	2年度	元年度	3年度	2年度	元年度	3年度	2年度	元年度
4月			1,187			45.7			10	2	0	2
5月			961			41.8			10	1	0	0
6月			1,098			42.2			10	0	1	3
7月			1,157			46.3			9	1	2	3
8月			969			46.1			6	0	1	3
9月			1,060			46.1			9	0	1	1
10月			1,122			46.8			10	2	2	1
11月			1,142			45.7			10	2	1	3
12月			811			47.7			7	1	2	2
1月	53		901	26.5		42.9			6	1	0	1
2月	130		955	26.0		41.5			9	1	1	4
3月	132			26.4						2	3	3
合計	315		11,363	26.3		44.7			96	13	14	26

(3) 登録団体数について

にぎわい交流館の登録団体数は3月末時点で268団体であり、前年度末に比べて61件減少しました。この減少は、団体登録の更新（3年ごと、令和3年3月が期限）の際に「会議室を利用しなくなった」「活動していない」といった理由で取消となったものを4月に計上したものが70件あり、多数を占めています。

新規登録団体の主たる活動分野は、「学術・文化・芸術・スポーツ」（5件）が多く、次いで「保健・医療・福祉」「まちづくり」（各3件）でした。

	新規登録	登録取消	差引増減	年度末団体数
平成29年度				271
平成30年度	39	11	28	299
令和元年度	25	2	23	322
令和2年度	10	3	7	329
令和3年度	17	78	-61	268

（単位：件）

(4) 相談対応について

期間中に対応した相談は333件でした。相談の多かった前年度（263件）と比べて、さらに約26%の増加となりました（前々年度は186件）。緊急事態宣言に伴う休館、会議室利用の感染症対策ルール、わいわいフェスティバルの開催形態変更の問い合わせなどがありました。

相談者の内訳は「登録団体」が37.2%で最多で、前年度と同様の傾向でした。

相談内容の内訳は「施設利用・団体登録したい」が最多、次いで「館の運営・事業について」となりました。「助成金・資金調達について」は昨年より増加しており、市の補助金応募の際の相談対応を強化した成果が表れています。

相談者の分類			相談内容の分類		
登録団体	124	37.2%	施設利用・団体登録したい	85	25.5%
市民	120	36.0%	館の運営・事業について	76	22.8%
未登録の団体	35	10.5%	団体について知りたい	38	11.4%
行政・学校等	25	7.5%	講座や団体を探している	37	11.1%
企業	23	6.9%	助成金・資金調達について	16	4.8%
社協	6	1.8%	その他	81	24.3%

※比率は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

(5) 主な事業の進捗状況

【受託事業】

	事業名	日程	参加者数等
1	にしんわいわいフェスティバル実行委員会事務局	《令和3年度開催》 会議等 4月～8月 ウェブサイト公開 7月3日(土)～12月27日(月)	《令和3年度開催》 実行委員 12名 出展団体 66団体 ウェブサイト訪問者数 1,206名、ページ閲覧数 10,618件(7月末時点)
		《令和4年度開催》 実行委員募集 9月 会議 9月～3月 出展団体募集 2月～3月	《令和4年度開催》 実行委員 4名
<p>市民活動団体等が主体的に関わるイベント開催のため、実行委員会(全体会・部会)の運営、出展団体の取りまとめ、経費精算をはじめとする事務を行った。</p> <p>令和3年度はコロナ禍でも実施できるよう、特設ウェブサイトの公開を中心とした団体の活動紹介を行い、出展団体のゆかりの品をエコバッグに詰めてプレゼントする企画(7月3日(土)～31日(土))を実施、120個全て配布した。</p> <p>9月以降は、令和4年度の開催に向けた実行委員会を開催している。「持続可能なわいわいフェス」を目指し、質の高いイベントになるように検討を進めている。</p>			
2	相談対応・専門家への相談 コーディネート	通年	
	<p>平常の相談対応に加え、1～3月は毎週水曜日を「相談員強化デー」と位置付けて対応力の高いスタッフを配置し、市民活動団体等が相談しやすい環境づくりに努めた。</p> <p>また、団体経営や会計・労務・ファンドレイジングなどの専門的な相談について、専門家への相談をオンデマンドで(申込に応じて)コーディネートする仕組みも継続している。</p>		
3	にぎわいNEWS 発行 (Vol. 22・23)	令和3年6月 令和4年1月	発行部数 各3,500部 掲載団体 合計11団体
	<p>Vol. 22 おはなしのおもしろさを伝えたい! おはなし・ひなの会、おはなしトレイン他 榎本 緑さん</p> <p>Vol. 23 「あったら助かる!」を形にしたワンズパスのゆずりあいプロジェクト ワンズパス(one's path)</p> <p>市民活動に関心を持ってもらうため、市民向けの情報紙を発行した。特集のインタビュー記事を中心に構成。コロナ禍でも市民の近くにある活動を取り上げ、当初の計画通り2号発行。</p>		
4	イベントカレンダー	令和3年6月～8月 令和4年1月～3月	
	<p>登録団体やにぎわい交流館が実施する一般向けのイベント情報を集約し、月1回市内公共施設に設置する予定だったが、コロナ禍でイベントが激減したため、発行の頻度や掲載情報を見直した。</p>		

	事業名	日程	参加者数等
5	にぎわい団体帖	令和3年10月	発行部数 100部 掲載団体 259団体
	市民活動・ボランティアの団体を知ってもらい、活動への参加やにぎわい交流館への来館を呼びかけるため、にぎわい登録団体の情報を掲載した冊子を制作した（ウェブサイトでも公開）。地域学校協働活動で市内の小中学校にも冊子を配布できた。計画通り実施。		
6	【代替】にぎわいメルカリ 初心者講座	令和3年10月16日（土） 令和3年12月4日（土）	12人 （登録・買物編4人、 出品・実践編8人）
	9月のにぎわい夢まつり・11月のにしん市民まつり（にぎわい交流館ブース）が中止となったため、団体の活動資金調達的手段として、メルカリの利用方法をお伝えした。参加者の理解度に合わせて「登録・買物編」「出品・実践編」の2回実施し、アプリの導入から売上金の活用までの流れを知り、出品まで行うことができた。		
7	Zoomの使い方講座	令和3年11月28日（日）	30人 （スタート編19人、 ホスト編11人）
	オンライン会議の重要性は今後も変わらないと考えられることから、市民活動団体がオンライン会議を活用して活動を継続・再開できるよう、実践を交えた講座を開催した。中部テレコミュニケーション株式会社及び株式会社ワントゥワンの協力を得て、スタート編講師を依頼。企業と連携して事業実施する機会として、打ち合わせの進め方等について知見を得ることができた。ホスト編はにぎわいスタッフが講師を担当し、講座後のフォローアップも行った。計画通り実施。		
8	広報にしん記事制作	令和4年3月号	
	「市民活動支援・市民交流のプラットフォーム にぎわい交流館って知ってる？」と題した市民向けの啓発記事を制作した。コロナ禍で休止していたランチの4月からの本格再開に向けた展望についても告知した。計画通り実施。		
9	Zoomでアイスブレイク講座（市民向け講座）	令和4年3月20日（日）	5人
	オンラインでも使えるアイスブレイク（解きほぐし術）を学ぶ講座。Zoom操作に慣れてもらおうとともに、オンラインでのやり取りでも対面と同様の温かなコミュニケーションができると感じてもらえるよう構成した。計画通り実施。		
10	【中止】木祖村フェア	【当初予定】令和3年8月	
	ワンデイシェフの利用促進、友好自治体との交流が目的。木祖村の夏野菜を使ったメニューを提供する「木祖村ランチフェア」、加工食品の受託販売などを予定していたが、感染症予防拡大防止のため中止した。10月に当館ギャラリーで写真等の展示を行った（市民協働課）。		

	事業名	日程	参加者数等
11	【中止】志摩市フェア	【当初予定】令和4年2月	
	志摩市商工会による物産販売など友好自治体のPRを行う予定だったが、感染症拡大防止のため中止。市民協働課によるにぎわい交流館でのギャラリー展示のみ2月に開催した。		

【自主事業】

	事業名	日程	参加者数等
12	にぎわいドリンク	通年	販売 1,269 本
	感染症対策のため喫茶やお茶の提供を休止していることから、熱中症対策や利用者サービス向上のためペットボトル飲料の販売を行った。		
13	事業報告・説明会	令和3年10月10日（日） （Zoom 公開質問会） 10月1日～14日（動画配信）	公開質問会参加1人、 資料配布5部、動画視聴 122回（1月20日時点）
	登録団体に対して、にぎわい交流館の前年度の事業成果について報告するとともに、本年度の事業計画について説明し、情報共有・意見交換を行うと機会とした。		
14	休日の喫茶提供	令和4年1月より順次再開	提供 14 杯
	来館者の増加につなげるため、ワンデイシェフのない日に喫茶を提供予定だったが、感染症対策のため休止していた。1月より状況に応じて土・日・祝の喫茶提供を再開した。		
15	デザイン座談会	令和4年2月21日（月）より	視聴 80 回 （3月21日時点）
	団体向け講座に準ずるものとして、広報についての考え方・ノウハウを発信する、スタッフ4名が出演する約47分間の動画を作成し、YouTubeで公開した。動画配信による事業実施を円滑に行うための経験を積むことができた。		

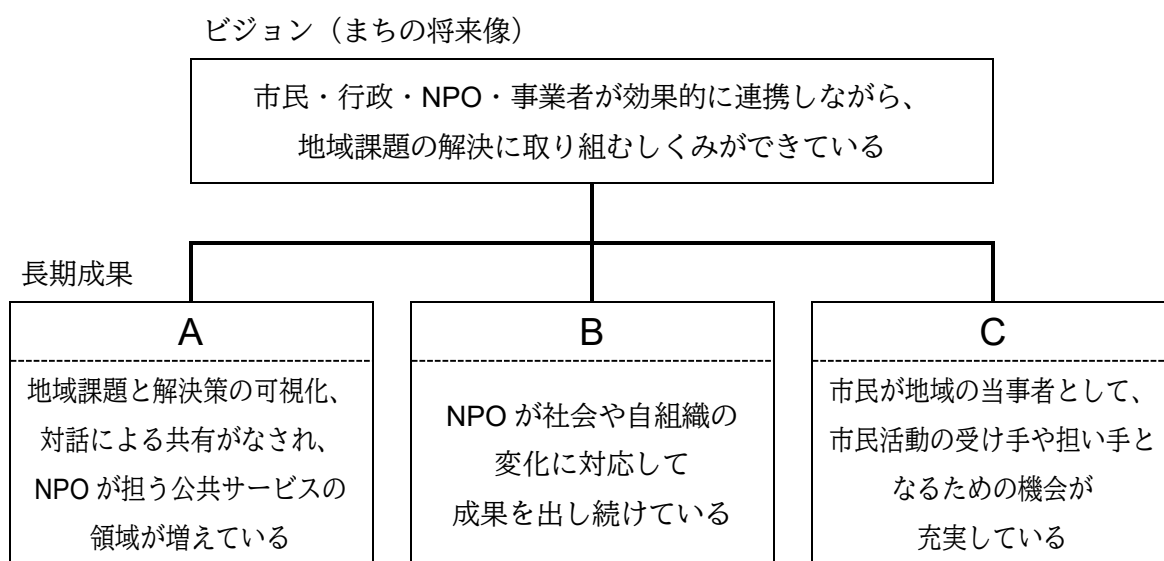
その他特記事項

- 日進市社会福祉協議会ボランティアセンターと打ち合わせ……月1回を目安に、7回実施。
 - 日進市社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員会参加
 - 子どもの支援を考える会……開催はないが、メール等での情報共有を継続
 - にしん観光まちづくり協会参加
 - 環境課……エコモビ推進キャンペーンに協力
 - 愛知淑徳大学 CCC……コラボメッセ（オンライン開催）に参加
 - 中日青葉学園……青葉まつり、サテライト「三つ葉」お披露目会に参加
 - 公益財団法人とよしん育英財団表彰……3団体を推薦。いずれも表彰を受けた。
 - 盟和産業株式会社……避難所用パーテーション実演会を開催、モニター貸出
- ※コピー機のカラーコピーの金額を20円に変更（従来は50～80円）。

2. 令和4年度にぎわい交流館運営計画について

(1) ビジョンと長期成果

運営の指針として平成29年度から掲げてきたビジョンを見直した結果、令和3年3月に策定された第6次日進市総合計画（以下「6次総」）にも当てはまることから、ほぼ同様のものを引き続き使用します。変更点は、連携の主体に「事業者」を明記したことです。使用期間は6次総の中間目標年に合わせ、令和7（2025）年度までとします。令和2年1月頃に始まったコロナ禍の影響が続いている中であっても、市民活動の流れを止めないように、当ビジョンを目指していきます。



	長期成果の数値目標 (R4年度)	直近の実績	6次総 2025年の 目標値等	所感
A	行政とNPOの 協働事業件数 104件	87件 (H30) 103件 (R1) 91件 (R2) 99件 (R3)	108件	新たな協働を創出する環境づくりに 努めたい。感染症対策のため団体が活 動を控える傾向は続いているが、オン ライン開催などコロナ禍でもできる 活動を模索する動きも見られる。
B	にぎわい交流館 登録団体数 273団体	268団体 (R4年3月)	327団体	登録団体数は堅調に推移している。 コロナ禍で活動できない団体があ る一方、新規団体も確実に生まれて いる。
C	ボランティア・NPO 活動への参加経験の ある市民の割合 16%	14.4% (H28) 14.7% (H30) 15.2% (R2)	20%※	市民が参加しやすくなる情報発信 や機会づくりを重ねたい。 ※ 2年ごとの市民意識調査での計測を継 続する。

(2) 受託事業および自主事業

分類	事業名	受託／自主
施設管理・ 利用許可等	会議室、印刷機、団体専用事務室等の利用許可、団体登録 調理室・ワンデイシェフ、マーケット ギャラリー、にぎわいコンサート 施設管理（清掃、警備など） 人権・男女共同参画情報スペースの管理	受託事業
	休日の喫茶提供 にぎわいドリンク、マスク販売	自主事業
相談窓口	(1) 相談対応	受託事業
	(2) 専門家への相談コーディネート	
	事務支援事業（消耗品販売、名刺作成、データ印刷等）	自主事業
情報収集 および発信	(3) 市民活動、大学・学生団体に関するチラシ等の受付、配架 団体書庫、図書等収集・配架 にぎわいNEWS（2回） 広報につきん記事制作（1回）	受託事業
	(4) にぎわい団体帖（1回） ウェブサイト、メールマガジン (5) イベントカレンダー（月1回） チラシ配送（市民自治活動奨励事業認定制度） キャラクター「わいわい」を利用したPR	
	SNS運用（Facebook、Twitter、Instagram、LINE等）	自主事業
講座・ イベント等	(6) わいわいフェスティバル実行委員会事務局 (7) 団体向け講座 (8) SDGs講座（市民向け講座） 友好自治体フェア（ランチフェア・産直フェア等）	受託事業
	(9) につきん市民まつり（にぎわい交流館ブース） (10) にぎわい夢まつり (11) 事業説明会	
会議等への参 加、関係機関 との連携	につきん観光まちづくり協会理事会 日進市ボランティアセンター運営委員会（社会福祉協議会） 子どもの支援を考える会（社会福祉協議会） 日進市ボランティアセンター（社会福祉協議会）、日進市社会 福祉協議会 CSW、市民協働課自治振興係、大学のボランティ アセンター等との定期または不定期の情報交換	受託事業

※番号のある事業は、次項に説明があります。

	事業名	実施回数等	受託／自主	対応する 長期成果
(1)	相談対応	通年	受託事業	B
	市民や団体の相談を受け、助言や提案を行う。必要に応じて他団体・関係機関とのマッチングを行う。毎週水曜日を「相談員強化デー」と位置づけ相談員を増員し、周知することで相談しやすい環境を整える。継続。			
(2)	専門家への 相談コーディネート	通年	受託事業	B
	団体経営や会計・労務・ファンドレイジングなどの専門的な相談について、専門家へ相談しやすい環境を整える。オンデマンド相談（申込に応じて手配）。継続。			
(3)	にぎわい NEWS	年 2 回	受託事業	C
	市民活動・ボランティアに関心を持ってもらい、活動への参加やにぎわい交流館への来館を呼びかけるため、市民向けの情報紙や記事を制作する。子育て世代や定年退職世代を主なターゲットとした記事を制作する。継続。			
(4)	にぎわい団体帖	1 回	受託事業	C
	市民活動・ボランティアの団体を知ってもらい、活動への参加やにぎわい交流館への来館を呼びかけるため、団体の情報を掲載した冊子を制作（情報更新）する。継続。			
(5)	イベントカレンダー	月 1 回	受託事業	C
	市民活動・ボランティアに関心を持ってもらい、活動への参加やにぎわい交流館への来館を呼びかけるため、にぎわいに集まるイベントの情報をカレンダー形式で制作する。紙媒体の他、ホームページに掲載することでいつでも情報へアクセスできる環境を整える。継続。			
(6)	わいわいフェスティバル 実行委員会事務局	通年 (7月2日(土)開催)	受託事業	C
	市民主体のイベント運営のための事務を行う。会議の補助、出展団体募集の受付、パンフレット作成、市との連絡調整など。市民活動団体同士や、大学生や地縁型の団体との連携を図る。また、市民へのSDGsや市民活動の啓発を行う。令和4年度はコロナ禍でも開催可能な内容と規模を想定し、対面開催を予定。継続。			
(7)	団体向け講座	1 回程度 (5 月)	受託事業	B
	「活動紹介のチラシ・掲示 レベルアップ道場」と題して、情報提供とワークショップを組み合わせた広報講座を実施する。 その他にも実施するかは検討中。			

	事業名	実施回数等	受託／自主	対応する 長期成果
(8)	SDGs 講座 (市民向け講座)	1回(6月)	受託事業	C
	カードゲーム「2030 SDGs」に楽しく参加することで、SDGsの本質を体感的に理解し、なぜSDGsが必要なのか、SDGsがあることでどんな可能性が生まれるかを学び、未来を考えるきっかけとする。			
(9)	にっしん市民まつり(にぎわい交流館ブース)	1回(11月)	受託事業	C
	にっしん市民まつりにおいて、団体が活動紹介したり資金調達したりする機会を設ける。 継続。 ※感染症対策等で中止の場合は、団体の資金獲得を支援する趣旨でクラウドファンディング講座に代替する。			
(10)	にぎわい夢まつり	1回(9月)	自主事業	C
	にっしん夢まつりに合わせて、団体が活動紹介したり資金調達したりする機会を設ける。 継続。 ※感染症対策等で中止の場合は、団体の資金獲得を支援する趣旨でクラウドファンディング講座に代替する。			
(11)	事業説明会	1回(上半期)	自主事業	なし
	にぎわい交流館の運営方針や事業計画について説明し、参加者の意見を聞く機会を設ける。継続。			